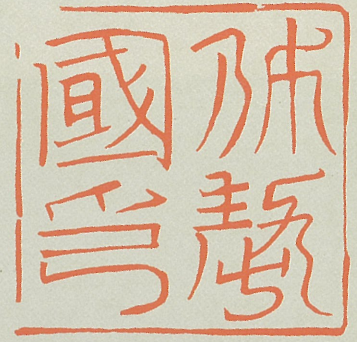
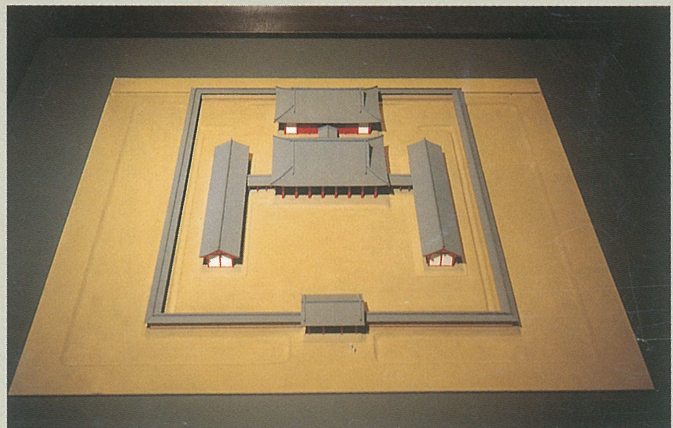


伊勢国府跡

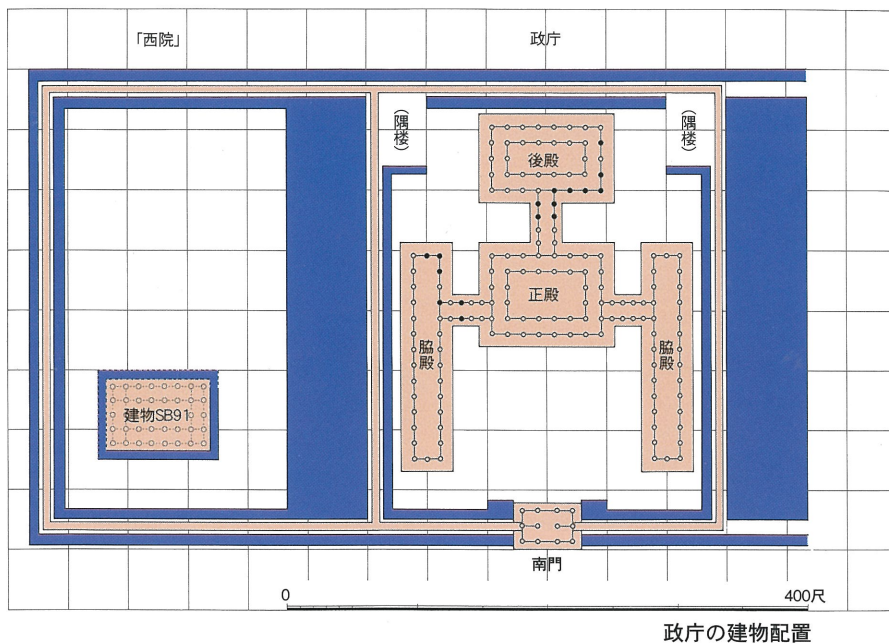
三重県鈴鹿市長者屋敷遺跡の発掘調査



唐草文軒平瓦



鈴鹿市考古博物館



政庁の建物配置

伊勢国府跡

国府は、60あまりの国ごとに置かれた古代の役所です。

三重県の大部分を占める伊勢国の国府は、地名から鈴鹿市国府町に所在すると考えられてきました。国府町には総社と伝えられる三宅神社や「長ノ城」「西ノ城戸」などの地名が残されています。昭和31(1956)年には京都大学の故藤岡謙二郎さんらによって歴史地理学的な見地から調査が実施され、「方八町」の国府域が想定されました。

そんな折、国府町から北へ約3.5kmに位置する鈴鹿市広瀬町の長者屋敷遺跡におびただしい量の古代瓦が散布することを知った藤岡さんらは、昭和32(1957)年に長者屋敷遺跡の調査を実施しました。国府町に平安期の伊勢国府を想定した藤岡さんは、長者屋敷遺跡を奈良時代の国府と考え、鈴鹿関との関係から軍団の機能を兼ね備えたものと考えました。

鈴鹿市教育委員会では、平成4(1992)年から長者屋敷遺跡の調査を開始しました。政庁やその他の官衙の確認によって、奈良時代中頃から平安時代初めにかけての伊勢国府跡であることが明らかとなりました。

政庁(矢下地区)

国府の中心的な施設である政庁は、東西600m・南北800mに及ぶ遺跡の南端で確認されました。政庁は国府の中でも最も格式の高い施設で、中央政府から派遣された国司を中心に儀式や饗宴、政務の一部が行われていたとされています。

伊勢国府の政庁(伊勢国庁)は、正殿・後殿・脇殿・軒廊などからなり、周囲には東西約80m・南北約110mの築地塀がめぐらされています。政庁の建物はすべて瓦葺礎石建物で、正方位に揃えられ、柱間には12尺あるいは10尺などの完数尺が用いられています。建物の配置や大きさは近江国庁によく似ています。



後殿



後殿の断面



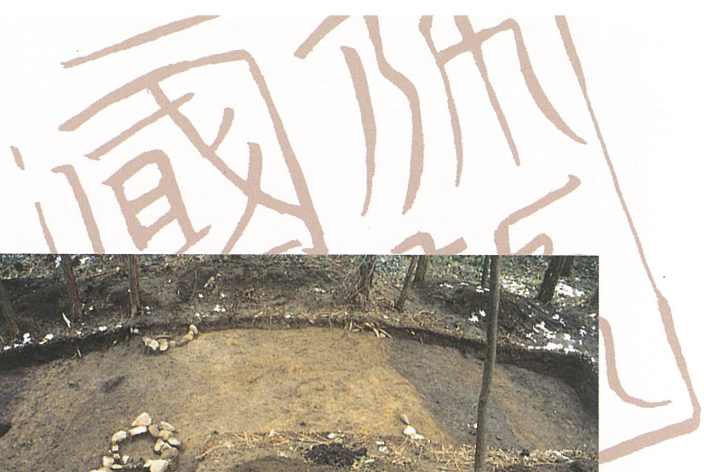
後殿

正殿・後殿・脇殿の基壇は今でも1mほどの高まりとして残っており、地表に痕跡を留めることが少ない国府遺構としては、全国的にも貴重な例といえます。基壇は異なる土砂を交互に叩き締めた版築工法によって造られています。

政庁の建物基壇には、整形したあと、埴などで仕上げる基壇化粧の痕跡が認められないので、未完成であった可能性もあります。



軒丸瓦



西脇殿



北軒廊

政庁南門の基壇は失われていますが、地下を掘り返し、叩き締めながら埋め戻した基礎地形が残っていたため、基壇の大きさが推定できます。



西脇殿の礎石抜き取り痕

軒瓦には重圈文軒丸瓦や重廓文軒平瓦が主に用いられ、平城宮のものと同じ型で作られた唐草文軒平瓦(平城宮6719A型式)が出土しています。その年代は恭仁京遷都以前の天平年間である729年から741年頃のものと考えられています。



南門



西脇殿南溝

伊勢国庁の大きさ

	東西			南北		
	間数	柱間	全長	間数	柱間	全長
正殿	7	12	84	5	12	60
後殿	7	12	84	4	12	48
脇殿	2	10	20	13	12	156
北軒廊	1	12	12	5	10	50
東西軒廊	5	8	40	1	12	12
南門	3	中央15 脇12	39	2	12	24
政庁域	276			368		

※柱間・全長の単位は天平尺。

伊勢国は、延喜式に記される国の四等級のうち、最上位である大國にあたり、さらには齋宮や鈴鹿関など特別な役所を有していました。政庁に認められる格式の高さは当時の伊勢国が置かれていた状況を物語ります。



東築地内溝



西築地外溝



北築地外溝

政庁西院(中起地区)

政庁の西には、政庁とほぼ同じ大きさの区画があります。周囲に築地塀もしくは土塁をめぐるせ、その内部では瓦葺礎石建物S B91が見つかっています。S B91の規模ははっきりしませんが、基礎地形がわずかに残り、周囲には溝が掘られています。「人」・「上」などの文字瓦が多く出土しました。



西区画溝(中起)



建物SB91(中起)

政庁西院は、政庁の機能を分掌し、補完する施設であったと想像されます。同様の官衙区画は、近江や三河においても推定されています。

ISE KOKUFU SITE

南野地区

瓦葺礎石建物SB01・SB08と掘立柱建物SB09や溝・土坑が見つかりました。SB01は今も礎石が残っています。SB01・08の周囲には溝が掘られ、「巴」・「水」などの文字瓦や鬼瓦を含む大量の瓦をはじめ、轆の羽口や鉄滓が出土しました。軒瓦は重圏文軒丸瓦が1点出土したのみです。平瓦には広端側に赤色顔料が付着するものもあり、平瓦が軒平瓦として用いられたこともあったようです。



鬼瓦(南野)



建物SB01(南野)

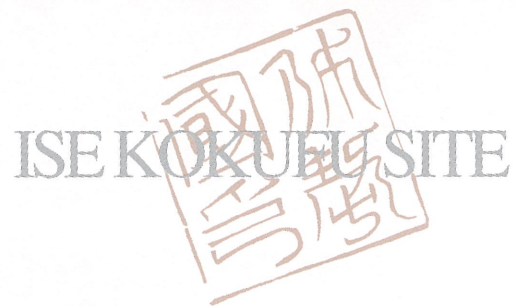
長塚地区

瓦葺礎石建物SB27・40・44・47や溝・土坑が見つかりました。幅約9mの大溝SB23から出土した大量の瓦には、屋根に葺かれていた様子のわかるものがたくさんありました。すぐ東隣のSB27が西に倒れ、たまたま大溝SD23の中に屋根の形状をとどめたのでしょう。

軒瓦は政庁に次いで豊富です。鬼瓦や「人」・「宿」などの文字瓦も出土しました。



倒壊瓦(長塚)



「倒壊瓦」は主に丸瓦・平瓦から構成され、軒瓦の出土はわずかでした。平瓦には広端部と狭端部が逆向きに出土したものがあり、これらが軒に使用されていた可能性も考えられます。瓦に伴って出土した土器類は、8世紀終わりから9世紀初め頃と推定されます。遅くとも平安時代の初め頃には建物が倒れていたものと考えられます。

建物倒壊の原因は、台風などの自然災害であったものと思われます。続日本紀などにも被害の記録が残されていますが、発掘調査で見つかる倒壊の跡と古記録との整合性は確かめられていません。



鬼瓦



軒丸瓦・軒平瓦(長塚)



建物SB44・47(長塚)



建物SB27(長塚)

長塚地区や南野地区における瓦葺きの官衙は、国司の館であった可能性が考えられています。これらの地区を含む遺跡北半には、方格に仕切られた道路を伴う地割があったようです。ただし遺跡南端にある政庁との関連はよくわかりません。



倒壊瓦(長塚)



軒平瓦(長塚)



竪穴住居(荒子)



掘立柱建物(荒子)



土師器・須恵器



文字押印瓦

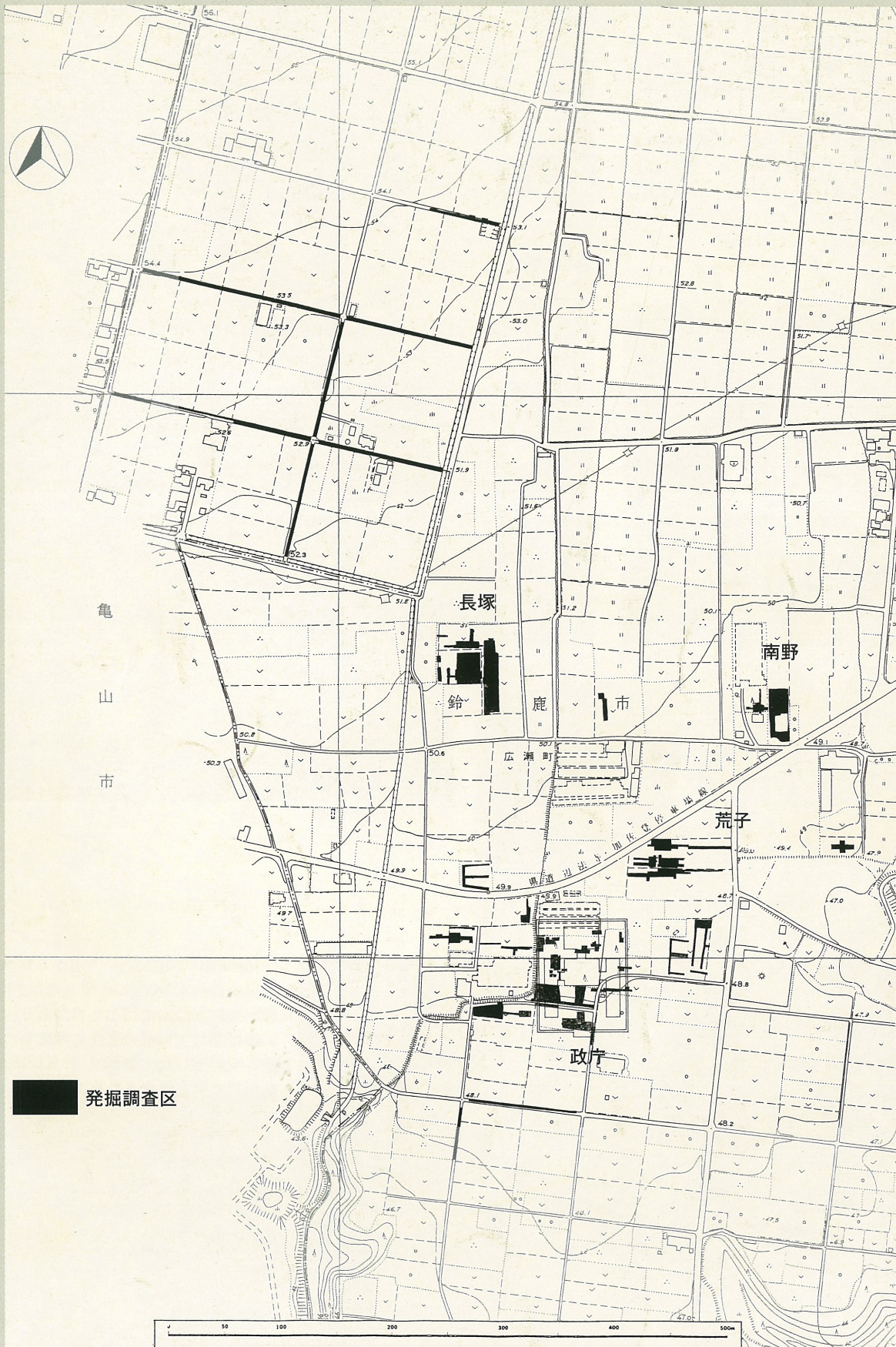
荒子地区

政庁の北東に隣接して、^{竪穴住居}竪穴住居や掘立柱建物が発見されました。いずれも国府中枢に関わるものではなく、奈良時代の終わりから平安時代初頭にかけての仮設的な施設と思われます。

伊勢国府関連略年表

天武 元	(672)年	壬申の乱. 飛鳥浄御原宮遷都
持統 3	(689)年	飛鳥浄御原令施行
持統 4	(690)年	庚寅年籍作成
持統 6	(692)年	持統天皇伊勢行幸
持統 8	(694)年	藤原宮遷都
大宝 元	(701)年	大宝律令制定
和銅 元	(708)年	和同開珎発行
和銅 3	(710)年	平城京遷都
和銅 6	(713)年	伊勢国大風
養老 2	(718)年	養老律令撰定開始
天平 元	(729)年	長屋王の変
天平12	(740)年	藤原広嗣の乱. 聖武天皇伊勢行幸
天平13	(741)年	恭仁京遷都. 国分寺建立の詔
※このころ鈴鹿市広瀬町に伊勢国府造宮か		
天平16	(744)年	難波宮遷都
天平17	(745)年	紫香楽宮遷都. 平城京遷都
天平宝字6	(762)年	伊勢国飢饉
天平宝字7	(763)年	石川名足を伊勢守に任ず
天平宝字8	(764)年	藤原仲麻呂(押勝)の乱
天平神護2	(766)年	伊勢国で官舎風損
宝龜 6	(775)年	伊勢国で異常風雨. 大祓おこなう
宝龜 7	(776)年	大伴家持を伊勢守に任ず
宝龜 11	(780)年	石川名足を伊勢守に任ず
延暦 3	(784)年	長岡京遷都
延暦 8	(789)年	伊勢国飢饉
延暦13	(794)年	平安京遷都
貞観 16	(874)年	伊勢国大風暴雨で国府官舎倒壊

享保17	(1732)年	長者伝説に関する記録の初見
宝暦13	(1763)年	長者屋敷遺跡に関する記録の初見
昭和32	(1957)年	故藤岡謙二郎らによる最初の発掘調査
平成 4	(1992)年	鈴鹿市教育委員会による発掘調査開始
平成 5	(1993)年	政庁の確認
平成 8	(1996)年	南野地区の調査
平成 9	(1997)年	長塚地区における倒壊瓦の発見
平成11	(1999)年	政庁南門の確認
平成12	(2000)年	政庁西院の確認



位置図(1:5000)